

入場無料

今井友樹監督 映画「夜明け前 ～呉秀三と無名の精神障害者の100年」上映

同時開催

私宅監置と日本の精神医療史展 (精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト 12)

■映画「夜明け前～呉秀三と無名の精神障害者の100年」 ルネこだいら中ホール(定員 350名)

12月9日(日)18:45開場 19:00開演(上映66分) **先着順・申込不要 手話通訳・字幕あり**

□上映後、岡田靖雄氏(精神科医)によるトークショー

岡田靖雄氏【略歴】 1931年生まれ。1956年医師免許取得(精神科医)。東京都立松沢病院などをへて、現在、青柿舎(精神科医療史資料室)運営。

■展示「私宅監置と日本の精神医療史展」 ルネこだいら展示室

12月7日(金)～9日(日) 10:00～18:00 (9日は19:00まで)

□ギャラリートーク(展示の案内・説明)

12月9日 ①14:00～ ②16:00～(各回定員30名) 講師:橋本明氏(愛知県立大学)

心を病んだ人々は、なぜ閉じ込められなければならないのか？
精神の病とは…、人間の尊厳とは…、いま突きつけられる問いかけ！



松沢病院の呉秀三胸像

呉秀三(くれしゅうそう)は、今から百年前の時代に東京大学医学部精神科の教授として、異例の社会的な取り組みを進めた先達者である。彼は精神疾患の人々が「座敷牢」に押し込まれる実情を憂い、その解決のために奔走した。その土台となった報告書『精神病者私宅監置ノ実況及ビ其統計的観察』を1918年に提起し、多方面へ働きかけた。それから1世紀の年月が過ぎた今、精神障害者の問題はどうかになっているのだろうか？

記録映画『こんばんは』(毎日映画コンクール記録文化映画賞/文化庁映画大賞)の編集を担った古賀陽一編集マンを迎え、その『こんばんは』、重度重複障害児を育てる家族を描いたアニメ『どんぐりの家』(きょうざれん20周年/山本おさむ原作・脚本)や、精神障害者の社会復帰を描く劇映画『ふるさとをください』(きょうざれん30周年/脚本:ジェームス三木)で指揮をとった中橋真紀人プロデューサー(イメージ・サテライト代表)のもとでパッションとパワーを注いだ。



東京大学安田講堂

精神障害者をめぐる問題は一つの国の在り方を左右する重大なものであり、欧米でも改革が進められている。何故なら、

人口の1%プラスアルファが精神疾患を発症するという前提のもと、全ての国民が理解と対処を迫られているからである。

しかし、古い時代から現在に至るまで、精神病は誤解と偏見、差別の対象となり、この病を持つ人々と家族は苦しみと犠牲を強いられている。2017年12月の「寝屋川市監禁死亡事件」、2018年4月の「兵庫県三田市監禁事件」の報道は、多くの人々に衝撃を与えた。しかし、このような事例はまだ少なからず存在すると関係者は指摘する。こうしたタイミングで、この課題に一貫して取り組んできた精神医療保健の専門家組織である公益財団法人 日本精神衛生会と、障害者福祉の土台を支えて40周年を迎える きょうざれん(旧称:共同作業所全国連絡会)が提携して製作したのが本作である。



資料館の「拘束具」



海外ロケ(ウィーン)

長編第1作『鳥の道を越えて』で高い評価を得た今井友樹監督(工房ギャレット代表)が、先輩である小原信之カメラマン(民俗文化映像研究所代表)とタッグを組み、2003年の記録映画の最優秀作として注目を集めた夜間中学の

今井友樹監督作品

勇気をもって前へ

立教大学教授 香山リカ
いつの時代も、社会を前に進めるのは、ひとりの気づきとそれに触発された大勢の仲間たちです。いまも心の病を持つ人たちが正しく理解され、その人権が十分に守られているとはとても言えません。

しかし、彼らが私宅監置などのもっとひどい処遇をあたりまえに受けていた時代に、呉秀三はそのおかしさに気づき、病者に治療と福祉の光をあてようとしたのです。私も本作から多くを学び、勇気づけられました。

夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年
【ドキュメンタリー/2018年/66分】



夜明けを迎える一助として

きょうざれん専務理事 藤井克徳
「呉秀三を正確に知ってほしい」一本映画企画の最大の動機です。あの「座敷牢調査」から100周年という節目の力を借りて伝えたいのです。呉秀三の言動が現代日本にして何ら色あせることなく、そっくり今に通用しており、「この国に生まれた不幸」は、見方によっては当時よりも真に迫っているのではないのでしょうか。呉秀三の言動が名実ともに古めかしく感じられる社会をどう作っていくか、障害当事者や家族の一人ひとりが本当の夜明けをいかに実感できるか、本映画がその一助になることを願っています。
(日本精神衛生会理事)

精神医療ミュージアム医療展示プロジェクト

一般市民の精神障害への関心は概して低く、メディアを通じて精神障害への誤解や偏見が助長されかねません。私たちはこうした現状を少しでも打開するために、精神医療や精神保健福祉に関する歴史を素材にした教育的プログラムの開発を目指しています。その重要な柱と位置づけているのが、「移動型ミュージアム」です。日本国内・国外の各地を移動して、小規模ながらも精神医療史の展示を順次行うことを考えています。今回とりあげているのは「私宅監置と日本の精神医療史」という展示です。確かにこれは「日本の近代」という限られた場所と時間に起きた現象を扱うものです。しかし、精神障害と向き合う国家、社会、家族や個人の対応には、空間と時間を越えたかなり普遍的問題が存在しているのではないのでしょうか…

(近代日本精神医療史研究会ブログより)

プロジェクトを代表して

愛知県立大学教授 橋本 明

写真1

群馬県の私宅監置室
(1910年)



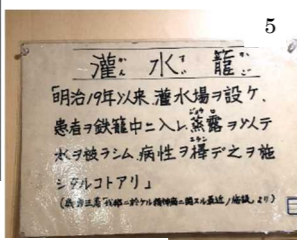
写真2
大分市市有監置室
(1940年)

写真3
北関東の私宅監置室
(1955年頃)



写真4・5・6

都立松沢病院に残る拘束具



今井友樹監督作品

夜明け前

呉秀三と無名の精神障害者の 100 年

ナレーション 竹下景子



我が国十何万の精神病患者は実にこの病を受けたるの不幸の外に、この国に生まれたるの不幸を重ねるものというべし。精神病患者の救済・保護は実に人道問題にして、我が国目下の急務と謂はざるべからず。

呉秀三

小平市民文化会館（ルネこだいら）案内図



西武新宿線小平駅南口下車 徒歩 3分
駐車場はありませんので公共交通機関をご利用ください

小平市精神障がい者理解促進研修・啓発事業

2018年12月9日（日）18:45 開場 19:00 開演

■会場 ルネこだいら 中ホール **入場無料**

■定員 350名（先着順・申込み不要・手話通訳、字幕あり）

■上映 66分・岡田靖雄氏（精神科医）トークショー

■主催：小平市 ■企画・運営：社会福祉法人ときわ会

■お問い合わせ あさやけ第二作業所（庄司）

TEL 042-345-1564 FAX 042-347-3315

Mail kure_shuzo@asayake.or.jp



沖縄県に残るかつての私宅監置室とその周辺（2016年撮影）

精神医療ミュージアム

移動展示プロジェクト 12

私宅監置と 日本の精神医療史展

Shitaku kanchi (the mental patients' confinement at home)
and the history of psychiatry in Japan

2018.12.7【金】・8【土】・9【日】 ルネこだいら 展示室

10:00～18:00（9日のみ 19:00まで）

会場 小平市民文化会館（ルネこだいら）展示室 187-0041 小平市美園町1-8-5

アクセス 西武新宿線「小平駅」下車、南口徒歩3分

お問い合わせ 社会福祉法人ときわ会あさやけ第二作業所（庄司）

TEL042-345-1564 FAX042-347-3315 Mail kure_shuzo@asayake.or.jp

◆小平市精神障がい者理解促進研修・啓発事業

主催 小平市 企画・運営 社会福祉法人ときわ会 協力 日本精神医学資料館（東京都立松沢病院）